

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

出エジプト記 35:30「見よ。【主】はユダ部族のフルの子であるウリの子ベツアルエルを名ざして召し出し、

35:31 彼に、知恵と英知と知識とあらゆる仕事において、神の霊を満たされた。

35:32 それは彼が金や銀や青銅の細工を巧みに設計し、

35:33 はめ込みの宝石を彫刻し、木を彫刻し、あらゆる設計的な仕事をさせるためである。

35:34 また、彼の心に人を教える力を授けられた。彼とダン部族のアヒサマクの子オホリアブとに、そうされた。

35:35 主は彼らをすぐれた知恵で満たされた。それは彼らが、あらゆる仕事と巧みな設計をなす者として、彫刻する者、設計する者、および、青色、紫色、緋色の撚り糸や亜麻布で刺繍する者、また機織りする者の仕事を成し遂げるためである。

36:1 ベツアルエルとオホリアブ、および、聖所の奉仕のすべての仕事をするのできる知恵と英知を【主】に与えられた、心に知恵のある者はみな、【主】が命じられたすべてのことを成し遂げなければならない。」

36:2 モーセは、ベツアルエルとオホリアブ、および、【主】が知恵を授けられた、心に知恵のある者すべて、すなわち感動して、進み出てその仕事をしたいと思う者すべてを、呼び寄せた。

36:3 彼らは、聖所の奉仕の仕事をするためにイスラエル人が持って来たすべての奉納物をモーセから受け取った。しかしイスラエル人は、なおも朝ごとに、進んでささげるささげ物を彼のところに持って来た。

Exo35:30 "See, the Lord has called by name Bezalel the son of Uri, the son of Hur, of the tribe of Judah;

35:31 "and He has filled him with the Spirit of God, in wisdom and understanding, in knowledge and all manner of workmanship,

35:32 "to design artistic works, to work in gold and silver and bronze,

35:33 "in cutting jewels for setting, in carving wood, and to work in all manner of artistic workmanship.

35:34 "And He has put in his heart the ability to teach, in him and Aholiab the son of Ahisamach, of the tribe of Dan.

35:35 "He has filled them with skill to do all manner of work of the engraver and the designer and the tapestry maker, in blue, purple, and scarlet thread, and fine linen, and of the weaver—those who do every work and those who design artistic works.

36:1 "And Bezalel and Aholiab, and every gifted artisan in whom the Lord has put wisdom and understanding, to know how to do all manner of work for the service of the sanctuary, shall do according to all that the Lord has commanded."

36:2 Then Moses called Bezalel and Aholiab, and every gifted artisan in whose heart the Lord had put wisdom, everyone whose heart was stirred, to come and do the work.

36:3 And they received from Moses all the offering which the children of Israel had brought for the work of the service of making the sanctuary. So they continued bringing to him freewill offerings every morning.

「感動して奉仕を願う者たち。」 出エジプト 35章 30～36章 3節

私が最初にこの箇所を読んだとき、ベツアルエルのようになりたいたいと思いましたが、「心に知恵のある者」(36・2)という言葉に打たれました。幼い時から人を観察して育ち、どうしてある人は知恵があり、ある人は知恵がないのかを不思議に思っていました。悟ったことは、自己中心で我が強い人は、知恵を使おうと算段することを面倒くさがるという様子でした。

「愚か者は知恵と訓戒を蔑む」(箴言1・2)は直ぐに腑に落ちました。私は知恵を求めていたのです。そして、知恵を働かせるべき生き方を求めていました。「聖所の奉仕のあらゆる仕事をする」ために、「知恵と英知」(36・2)が必要であることは当然なことでした。さらに、「神の霊を満たされた。」(35・31)ということは、なんと感動するべきことでしょうか。

私は生き甲斐を求めていました。神に仕えるということは、人生の目的としては究極的にはこれ以外にない、というほど完ぺきなことです。それでは、「金や銀や青銅の細工を巧みに設計し、はめ込みの宝石を彫刻し、木を彫刻し、あらゆる設計的な仕事をさせる」(35・32-33)とはどういうことでしょうか。聖所の仕様は全て意味があることがわかりました。ですから、「心に知恵のある者」でなければ、神の喜ばれるものを作れないことは当然です。

この会堂の雨漏りの補修工事を何度繰り返したことでしよう。手抜き工事が続き、費用を掛けても解決せず、未だ少しずつ修繕しています。「心に知恵のある者」でなければ、神の宮を建て上げるのに相応しくありません。

教会形成とは、「聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストの身体を建て上げる」(エペソ4・12)ことです。そして、その奉仕において、「わたしたちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人」(4・13)となるのです。

ですから、教会の奉仕というものは、「進んで献げる心のある人」(出35・2)によるものでなければなりません。奉仕をしなければ、信者が「成長して愛のうちに建てられること」(エペソ4・15)はありません。奉仕者に必要なことは、「感動して、進み出てその仕事をしたいと思う」(2)ことです。神の働きには、遠慮する者、やる気のない者、心から仕事をすることができない者は加わることはできません。教会形成を破壊するのは、そのような奉仕の心のない人々です。

「感動して、進み出てその仕事をしたいと思う」けれども、能力も知恵もないと思う人がいるかもしれません。でも、だからこそ「彼の心に人を教える力を授けられた。」(28)のです。母教会で牧師からブラスバンドを作り、東日本聖会で演奏するように頼まれました。経験者は私の他に3名だけでしたが、演奏者を募りました。15名ほどが申し出て、猛練習をしました。楽器ですから上手下手はわかりません。私は全ての楽器を指導し、また其々の技能に応じて譜面を書き、指揮をしました。それに専念していたので、大学院の入試の時にはすっかり解答を忘れていて、不合格となりました。でも、その時の充実感や忘れることはできません。一年留年したことはみつともなかったのですが、それを恥じないで勉強したので、力を付けました。

「私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方」(エペソ3・20)が、献身的な願いを持った人々を励まし力づけ、「あらゆる点において、かしらであるキリストに向かつて成長」(エペソ4・15)させてくださるのです。音痴の劣等感を持っていたのが、その指揮指導をするうちにすっかり音感が身に付きました。大学院の不合格というみつともなさを、神がかりの知恵をもって優秀な成績を与えてくださいました。

神学校に入ってから全く勉強の時間がなく、疲れ果て成績が落ちる一方であり、校則も守れない私を弓山校長が守ってくださいました。私にとつて、神学校の成績や人の評価よりも、神に献身しているかどうか、自分の基準でありました。病弱な妻の世話と子育てで、牧師としての成功も諦め、ただ神に仕える人生を使命としました。その間、都合の良いように教会生活を送ろうとする人々に教会をかき回され、批判を受け、苦しみ抜きました。しかし、神はご存知です。私は、その人々を憎むことも攻撃することもしませんでした。それは、彼らには、神がおられないし、神が守ることもないことを感じていたからです。

自己都合で生きる人々に神が共におられることはありません。しかし、私は、「願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方」(3・20)の祝福を得ています。「進んで献げる心」のない人に献金を頼んだことはありません。それに代わって、欠けた分を補って献げた私を神は十分に満たしてくださいました。私自身は、「感動して、進み出て(牧師としての)仕事をしたいと思」ったのですが、今でも、この働きに感動しております。